

88.またアッラーと一緒に、外のどんな神にも祈ってはならない。かれの外には、神はないのである。かれの御顔の外凡てのものは消滅する。裁決はかれに属し、あなたがたは（凡て）かれの御許に帰されるのである。

SURA 29.蜘蛛章〔アル・アンカブート〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ミーム。

2.人びとは、「わたしたちは信じます。」と言いさえすれば、試・られることはなく、放って置かれると考えるのか。

3.本当にわれは、かれら以前の者も試・ている。アッラーは、誠実な者を必ず知り、また虚言の徒をも必ず知っておられる。

4.悪を行う者は、われを出し抜くことが出来ると考えているのか。かれらの判断こそ、災いのもとである。

5.アッラーに会うことを切望する者よ、アッラーの（定められる）期限は確かに来る。かれは全聴にして全知であられる。

6.信仰のために奮闘努力する者は、自分自身のために奮闘努力しているのである。アッラーは、すべてのものに、何一つ求めない。

7.われは信仰して、善行に勤しむ者には、いろいろの罪を取り消し、その行った最善のことに、必ず報いるであろう。

8.われは人間に、両親に対して規切にするよう命じた。だがもしかれら（両親）が、あなたに対し何だか分からないものをわれに配するように強いるならば、かれらに従ってはならない。あなたがたは（皆）われの許に帰る。その時われは、あなたがたの行ったことを告げるであろう。

9.われは信仰して、善行に勤しむ者を、必ず正義の人びとの中に入らせるであろう。

10.人びとの中には、「わたしたちは、アッラーを信仰します。」と言うが、一度アッラー（の道のため）に苦難に会うと、人間の迫害をまるでアッラーの懲罰であるかのように考える者がある。またもしあなたの主からの助け（と勝利）が（声？）されると、かれらは必ず、「本当にわたしたちは、あなたがたと一緒でした。」などと言う。万人の胸の中に抱くことを最もよく知る御方は、アッラーではないか。

11.アッラーは、信仰する者たちも、偽信者たちをも必ず知っておられる。

12.不信心の者は、信仰する者に向かって、「わたしたちの道に従いなさい。わたしたちがあなたがたの罪を必ず負ってやりましょう。」と言う。だがかれらは、少しもあなたがたの罪を、負いはしない。本当にかれらは虚言の徒である。

- 13.だがかれらは自分の重荷を負い、そのうえ（外の）重荷をも負うであろう。復活の日には、かれらの虚構していたことに就いて必ず問いただされるであろう。
- 14.且つてわれはヌーフを、その民に遣わした。かれはその間に留まること、千年に欠ける50年。人びとは悪を行っている間に、洪水に襲われた。
- 15.その時われは、かれと方舟の仲間とを救い、それを万有のための訓戒とした。
- 16.そしてイブラーヒームがその民にこう言った時を思え。「アッラーに仕え、かれを畏れなさい。それがあなたがたのために最も良い。もしあなたがたが理解するならば。
- 17.あなたがたは、アッラーを差し置いて偶像を拝し、虚偽を捏造しているに過ぎない。あなたがたがアッラーを差し置いて拝するものたちは、あなたがたに御恵・を与える力はない。だから、アッラーから糧を求め、かれに仕え、感謝しなさい。あなたがたはかれの御許に帰されるのである。
- 18.あなたがたが嘘付き呼ばわりしても（よい）。だがあなたがた以前の諸民族も嘘付き呼ばわりしたものである。使徒は、只公明に伝えるだけである。」
- 19.かれらはアッラーが、如何に創造をなされ、それからそれを繰り返されるかを知らないのか。それはアッラーには、本当に容易なことである。
- 20.言ってやるがいい。「地上を旅して観察せよ。かれが如何に、最初の創造をなされたかを。やがてアッラーは、最後の（甦りの）創造をなされる。本当にアッラーは凡てのことに全能であられる。」
- 21.かれは御望・の者を罰し、御望・の者に慈悲を垂れられる。あなたがたはかれの御許に返されるのである。
- 22.あなたがたは天においても地にあっても、かれ（の計画）を、頓挫させることは出来ない。またアッラーの外に、あなたの守護者も援助者もないのである。
- 23.アッラーの印を信じないでまた、かれとの会見を信じない者にはわれの慈悲に与かる望・はなく、痛ましい懲罰があるだけである。
- 24.かれ（イブラーヒーム）の民の返答は、只「かれを殺しなさい。焼いてしまいなさい。」と言うだけであった。だがアッラーは、火からかれを御救いなされた。本当にこの中には、信仰する人びとへの印がある。
- 25.またかれは言った。「あなたがたは、現世の生活において、お栗いの慈し・としてアッラーを差し置いて偶像を崇めている。だが復活の日には、あなたがたは栗いに（関係を）否認し合い、栗いに呪い合うであろう。住まいといえば火獄であり、あなたがたには、どんな救助者もないのである。」
- 26.ルートはかれ（イブラーヒーム）を信じた。かれは言った。「わたしは主（の御許）に移り住もう。本当にかれは偉力ならびなく英明であられる。」

- 27.またわれは、かれにイスハークとヤアコーブ（のような子孫）を授け、その子孫の間に、預言の天分と啓典を授け、現世の報奨をも与えた。来世においてもかれは必ず正義の徒の仲間になろう。
- 28.またルート（を遣わし）、かれの民に、こう言った時を思え。「あなたがたは醜行をしている。あなたがた以前に、どんな世代でもしなかったことを。
- 29.本当にあなたがたは、男性に近付き、また公道で強盗を働く。またあなたがたの集りで、忌まわしい事をしている。」だがかれの民は（答えて）、只「あなたが真実を言うのなら、わたしたちにアッラーの懲罰を(湾?)して・なさい。」と言うだけである。
- 30.かれは（祈って）言った。「主よ、不義を行う民からわたしを御助け下さい。」
- 31.わが使徒（天使）たちが、吉報を持ってイブラーヒームの許に来た時、かれらは言った。「わたしたちは、この町の人びとを滅ぼそうとするところである。本当にここの住民は、悪を行う者たちばかりである。」
- 32.かれ（イブラーヒーム）は言った。「だがルートがそこにいる。」かれらは言った。「わたしたちは、誰がそこにいるかを熟知している。落伍者であるかれ（ルート）の妻の外は、かれもその家族をも必ず救うであろう。」
- 33.わが使徒たち（天使）がルートのところに来た時、かれは自分の無力さを感じ、人びとのため悲しんだ。かれら（天使）は言った。「心配してはなりません。悲しんではなりません。本当にわたしたちは、あなたの妻の外は、あなたとあなたの家族をも救います。かの女は落伍者です。
- 34.わたしたちは、この町の人びとが邪悪無法なため、かれらに天から懲罰を下そうとするところです。」
- 35.本当にわれはそれによって、理解ある民への明白な印を残したのである。
- 36.またわれは、マドヤン（の民）にその同胞のシュアイブを遣わした。かれは言った。「わたしの人びとよ、アッラーに仕え、最後の日を待ち望・なさい。悪を行って、地上を退廃させてはならない。」
- 37.だがかれらはかれを嘘付き呼ばわりした。それで大地震がかれらを襲い、翌朝かれらは家の中に平伏していた。
- 38.またアードとサムードに就いては、（廃墟と化した）かれらの住まいによって、既にあなたがたに明瞭である。悪魔はかれらに、自分の所行を立派であると思わせ、立派な見識を与えられていたのに、正道から離反させる結末となった。
- 39.またカールーンとフィルアウンとハーマーンのことであるが、ムーサーが明証 りれに(西?)したが、それでもかれらは、地上において高慢であった。だがかれらは（われを）淡ぐことは出来なかった。

- 40.それでわれは、かれらをそれぞれの罪に照らして懲じめた。ある者には砂石の暴風を送り、またある者には一声（懲罰）で襲いかかり、またある者は大地に沈め、またある者を溺れさせた。これはアッラーがかれらを損なったのではない。かれらが、自分を損なったのである。
- 41.アッラーを差し置いて外の主人を取る者を譬えれば、（自分で自分の）家を造る蜘蛛のようなものである。本当に家の中でも最も弱いのは、蜘蛛の家である。かれらに分っていたならば、よかったのに。
- 42.本当にアッラーは、かれを差し置いてかれらが祈る、凡てのことを知っておられる。かれは偉力ならびなく英明であられる。
- 43.これらは、われが人間のために提示する譬えである。だが知識ある者の外は、これを理解しない。
- 44.アッラーは諸天と大地を真理によって創造なされた。本当にその中には信仰する者への印がある。
- 45.あなたに啓示された啓典を読誦し、礼拝の務めを守れ。本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける。なお最も大事なことは、アッラーを唱念〔ズィクル〕することである。アッラーはあなたがたの行うことを知っておられる。
- 46.また啓典の民と議論するさいには、立派な（態度で）臨め。かれらの中不義を行う者にたいしては別である。それで言ってやるがいい。「わたしたちは、自分たちに下されたものを信じ、あなたがたに下されたものを信じる。わたしたちの神（アッラー）とあなたがたの神（アッラー）は同じである。わたしたちはかれに服従、帰依するのである。」
- 47.われはこのように、あなたに啓典を下したのである。それで、啓典を与えられている者は、この（クルアーン）を信じる。またこれら（マッカの人びと）の中にも、それを信じる者がある。わが印を否定するのは不信心者だけである。
- 48.あなたはそれ（が下る）以前は、どんな啓典も読まなかった。またあなたの右手でそれを書き写しもしなかった。そうであったから、虚偽に従う者は疑いを抱いたであろう。
- 49.いやこれこそは、知識を与えられた者の胸の中にある明瞭な印である。不義の徒の外は、わが印を否定しない。
- 50.だがかれらは、「何故主から印が、かれに下されないのか。」と言う。言ってやるがいい。「本当に凡ての印は、アッラーの御許にある。わたしは公明な警告者に過ぎないのである。」
- 51.われがあなたに啓典を下し、あなたはかれらに読誦する。かれらにはそれで十分ではないか。本当にその中には、信仰する者への慈悲と訓戒がある。

- 52.言ってやるがいい。「アッラーは、わたしとあなたがたとの間の、立証者として万全であられる。かれは天と地にあるものを知っておられる。だから虚偽を信じてアッラーに背く者は失敗する者であろう。」
- 53.かれらは懲罰を急ぐよう、あなたに求める。もし定められた期限がなかったならば、懲罰は必ずかれらに来るであろう。かれらが気付かない中に、突然必ず襲うであろう。
- 54.かれらは懲罰を急ぐよう、あなたに求める。だが地獄は不信心者たちを取り囲んでいる。
- 55.懲罰は、かれらの上からまた足元からかれらを襲う。その日（声があつて）言われよう。「あなたの行ったことを味わえ。」
- 56.信仰するわれのしもべよ、本当にわが大地は、広いのである。だからわれだけに仕えなさい。
- 57.各人は死を味わわなければならない。それからあなたがたはわれの許に帰されるのである。
- 58.だが信仰して、正しい行いに勤しむ者は、われは必ず下に川が流れている樂園の高殿に、落ち着かせよう。（永遠に）そこに住まわせる。（善）行を行う者への報奨は、何と有り難いことよ。
- 59.これはよく耐え忍び、自分の主を信頼している者（への報奨である）。
- 60.自分の糧を確保出来ないものが如何に多いことであろうか。アッラー（こそ）はそれらとあなたがたを養われる。かれは全聴にして全知であられる。
- 61.もしあなたがかれらに、「誰が天と地を創造し、太陽と月を服従させるか。」と問うならば、かれらは必ず「アッラー。」と言うであろう。それならどうしてかれらは迷い去るのか。
- 62.アッラーは、御自分のしもべの中、御好・の者には糧を豊かに与え、また（そう望まれる）者には切り詰められる。本当にアッラーは、凡てのことを熟知なされる。
- 63.もしあなたが、かれらに「誰が天から雨を降らせ、それで、死んでいる大地を甦らせるのか。」と、問うならば、かれらはきっと「アッラー。」と言うであろう。言え、「アッラーを讃えます」。だがかれらの多くは理解しない。
- 64.現世の生活は、遊びや戯れに過ぎない。だが来世こそは、真実の生活である。もしかれらに分っていたならば。
- 65.かれらは船に乗っていると、アッラーに信心の誠を尽くして祈る。だがかれが、陸に無事に送って下されると、たちまちかれらは偶像を拝・だし、
- 66.われがかれらに授けたものを、有り難く思わず、享樂に耽る。だがかれらは、今に分るであろう。
- 67.かれらは、われが安全な聖域を定めたのに気付かないのか。まわりでは人びとが略奪に晒されているというのに。それでもかれらは虚構を信じ、アッラーの恩恵に背を向けるのか。

68.アッラーに対し虚偽を捏造し、真理が(お?)されたのに、それを虚偽であるとする者よりも、酷い不義者があるか。地獄の中には、不信心者たちの住・かがないとでも思うのか。

69.だがわれ(の道)のために奮闘努力〔ジハード〕する者は、必ずわが道に導くであろう。本当にアッラーは善い行いの者と共におられる。

SURA 30.ビザンチン章〔アッ・ローム〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ミーム。

2.ビザンチンの民は打ち負かされた。

3.近接する地において(打ち負かされた)。だがかれらは、(この)敗北の後直ぐに勝つであろう。

4.数年の中に(勝利を得よう)。前の場合も後の場合も、凡てはアッラーに属する。その日、ムスリムたちは喜ぶであろう。

5.アッラーの勝利を(喜ぶであろう)。かれは御望・の者を助けられる。かれは偉力ならびなく慈悲深き御方であられる。

6.(これは)アッラーの約束である。アッラーはその約束を違えられない。だが人びとの多くは理解しない。

7.かれらの知るのは、現世の生活の表面だけである。かれらは(事物の)結末に就いては注意しない。

8.かれらは反省しないのか。アッラーが天と地、そしてその間にある凡てのものを創造なされたのは、唯真理のため、また定めの時のためであることを。だが人びとの多くは、主との会見を否認する。

9.かれら(マッカの多神教徒)は、地上を旅してかれら以前の者の最後が如何であったかを、観察しないのか。かれら(昔の人)は、かれらよりも力において優れ、地を掘り起こし(て耕作し)、またかれらよりも栄えていた。そして使徒たちは明証を持ってかれらのところに来た。アッラーがかれらを損ったのではない。かれらが自ら自分を損ったのである。

10.所詮悪行の徒の最後は悪い。それはかれらがアッラーの印を虚偽であるとし、それを愚弄していたためである。

11.アッラーはまず創造を始め、それからそれを繰り返す、それからあなたがたをかれに帰される。

12.(審判の)時が到来する日、罪のある者は絶望するであろう。